

リコージャパン株式会社オフィス見学会開催報告書

- 実施日：2014年9月8日（月）
- 主催：みちのく EMS 認証機構事務局
- 参加者：14名

1. はじめに

リコージャパン株式会社（以下、リコージャパン）は2001年にISO14001の認証を取得し、全員参加による環境活動をおこなっている会社です。

今回は、リコージャパンの社員で、みちのく EMS の審査員としての活動もおこなっている土井様、森田様より、5S・ワークスタイルの変革・環境・ペーパーレス・セキュリティなどの取組みについて説明していただくとともに、実際に働いているオフィスを見ながら、どのような取組みをおこなっているか見学してきました。



2. リコージャパンのISO14001の取組みについて

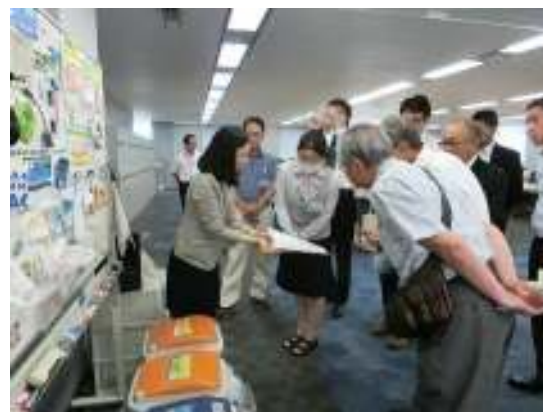
①最初の取組み

日本国内でいち早くISO14001を取得したリコーでは、国内の販売会社（現リコージャパン）においてもISO14001を認証することになりました。営業関係なので「環境」といっても何をしたらよいか分からないなか、まずは「コピー」、「電気」、「ガソリン」から取組みを開始し何とか認証することができました。

②「ゼロエミッション」の取組み

マンネリ化した活動のアップを目指し次のステップとしてオフィス部門における「ゼロエミッション」へ挑戦することとなりました。

ゴミの分別をおこない、分別したゴミをきちんとリサイクルしてくれる業者を探すところからはじめました。また、社内においては、例え社長室であっても「個人のゴミ箱を廃止」し、フロア共有の分別箱を設置し、19種類に分別しています。「混ぜればごみ、分ければ資源」と考え、自らがゴミを分別することで、ごみを「会社の光物へ」と考えるようにしているそうです。



③社員の意識改革

「ごみゼロ活動」をはじめめるために、社員の意識を変える必要がありました。トップダウンだけでは社員はやらされているという負担感が大きくなってしまい、なかなかうまくいきません。そこで、ごみゼロ推進委員を若手中心にし、全社員と同じ目線で、ボトムアップで、自らの意思でリサイクルに取り

組んでもらうようにしました。

④ゴミ分別徹底への取組み

19種類も分別があると分別がわからなくなってしましますが、リコージャパンでは次のような工夫をおこなっています。

- A) ホワイトボードに実物を貼る(使用していなかったボードの有効利用)
- B) 「行方知れずBOX」設置(社員の声に答えた)
- C) 啓発用のポスターの表現やコントラストの工夫
- D) 「環境パトロール」や「環境クイズ」を実施(ゲーム感覚)
- E) 朝礼で分別間違いを発表(継続させる仕掛け)
- F) 全社員がグループ単位で当番となりゴミの分別状況についてチェック及び計量を実施(全員参加)



これらの取組みをおこなうことで、リサイクル率は98%(サーマルリサイクル含む)となっています。

3. ペーパーレス化について

リコージャパンはコピー機、印刷機を販売する会社ですが、無駄な紙を印刷しない取組みも行っています。

紙に印刷し、保管していたものは電子データとして保管しています。また、袖机を廃止し、キャビネットを削減。個人ロッカーを設置し、共有スペースについても管理責任者を明確にしました。これまで、紙の書類などは机の引き出しや空いているスペースで保管していましたが、保管する場所が少ないため、印刷が少なくなりました。

PC、プロジェクター、大型モニターの活用によるペーパーレス会議の開催や申請書などの電子承認フローなどなるべく紙を使用しないように業務を効率化しています。

また、無駄な印刷をなくすため、ICカードによる出力管理を行っています。印刷ボタンを押してもすぐに印刷されないことで、コピー機の操作で間違った印刷を削除したり、両面印刷に変更したりすることもできます。コピー機に自分のICカードをかざさないと印刷がでてこないため、放置プリントの防止にもなり、情報漏えいを未然に防ぐことにもなります。

そして、コピー用紙の削減率の良かった人トップ10を壁に貼り、意識も高めています。

4. ワークスタイルの変更について

これまで、残業が当たり前でしたが、業務時間をきちんと決めることで、電気代の節約にもなりました。今までの働き方を変え、1人1人のパフォーマンスを上げることで作業効率が上がりました。

最近ではタブレットを活用した営業スタイルの変革にも取り組んでいます。

5. おわりに

2001年にISO14001、2004年に情報セキュリティ（ISO27001）についても取組み始めました。コピー用紙の裏紙利用はよく行われますが、情報漏えいの危険も伴います。情報漏えいの観点からいくと、捨てること事態が大変なことです。そのため、できるだけ、無駄な物、ごみをださないことが大切です。

リコージャパンが今も取組みを続けることができているのは環境だけではなく、情報セキュリティの強化も併せて行うことができおり、会社にとって有益な活動とつながりをもたせているからではないでしょうか。また、全社員の取組みとして行っていることが取組み継続の大きな要因であると思えました。